

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 029	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名 長期かつ省力的な飼料畑維持管理手法の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 県内粗飼料生産は、飼料作物栽培の担い手不足や鳥獣被害などを要因として、作付面積は年々減少しており、飼料基盤の脆弱化だけでなく、荒廃農地の拡大につながる等、農地保全の観点からも問題化している。 畜産技術センターでは、現在、農地の維持管理と最低限の飼料作物の確保を目的とした省力的な自給飼料生産体系を確立するため、寒地型イネ科牧草の適応性を検証し、本県に適した栽培体系を検討されていると認識している。この検討に関連して、より長期に飼料畑を管理する手法として、施肥や、マメ科牧草の活用による簡易更新など、寒地型イネ科牧草の栽培体系における超長期管理方法の手法について、検討していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター      ③水産技術センター      ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中      ③継続検討      ④実施済      ⑤調査指導対応      ⑥現地対応      ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 神奈川県における寒地型イネ科牧草の適応性の検討 (R5-R9)		
対応の内容等	ご提案いただいたとおり、令和2年から令和5年までの間、寒地型イネ科牧草の本県における適応性を検討しました。現在は、選定した寒地型イネ科牧草1品種を一般ほ場に播種し、とうもろこし・イタリアンライグライスの二毛作との収量や労力の差について比較検討しています。 ご提案いただいた、寒地型イネ科牧草の栽培体系における超長期管理方法（4～5年程度の草地管理方法）については、本県に適した施肥の方法や刈取時期等を今後検討していく予定です。なお、マメ科牧草を活用した草地簡易更新については、作業機がなくすぐに取り組むことができませんが、一般的な酪農家が所有する作業機を用いて実施できる方法について情報収集していきます。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考	「高温期を回避したオーチャードグラスの刈取管理法」岩手県農業研究センター（2022）		